

利根川河口堰を通る“魚”～ボラ～



ボラはもともとは海の魚ですが、海でふ化した稚魚は春になると群れをなして利根川の汽水域(※)を遡上していきます。利根川河口堰の魚道を通る魚の中では、最も多くその数が確認されています。

ボラは、ブリなどと同様に、オボコ→イナッコ→スパシリ→イナ→ボラ→トドと、大きくなるにつれて呼び名が変わるいわゆる出世魚です。この呼び名については以下のとおりいろいろな言葉の語源になっているようです。



「トド」は、「これ以上大きくならない」ことから「結局」などを意味する「とどのつまり」の語源になったと言われ、「イナ」は、江戸時代の若者の頭の青々とした剃り跡をイナの青灰色でざらついた背中に見たことから、「いなせ」の語源と言われています。「オボコ」は子供などの幼い様子や、可愛いことを表す「おぼこい」の語源になっています。

ボラは刺身、洗い、味噌汁、唐揚げなど様々な料理で食べられます。メスの卵巣を塩漬けし乾燥させたカラスミは高級食材として知られています。 (※)淡水と海水がまじった水域

『沈水植物復元試験』経過報告 ～西浦で生育中～



霞ヶ浦の水環境改善に向け、平成23年度に西浦左岸(行方市井上地区他)で造成した試験施設では、簡易なフェンスで囲った中に網目状のマットに沈水植物をはさんで設置しました。現在はマットに根付いた沈水植物の生育を確認しています。今後も調査を続けていき、結果をお知らせします。



水質体験学習会 ～241名の小学生が参加～



8月2,7～9日の4日間、霞ヶ浦ふれあいランドにある水質学習棟で「行方市児童環境科学セミナー」が開催されました。霞ヶ浦の水質を学ぶため、機構職員が参加児童の水質学習のお手伝いをしました。毎年子供たちの夏休みにあわせて行われる行事で、今年は、行方市内の小学5年生の241名が参加し、霞ヶ浦で採水やプランクトン採取、学習棟で採水した水の汚れ具合の測定や、顕微鏡によるプランクトン観察、ペットボトルを使ったろ過実験に取り組みました。また、「霞ヶ浦を汚さないためにはどうすれば良いか」を班ごとに話し合うことで、霞ヶ浦の水質浄化の意識も高められました。



編集後記

ちよっくら散歩でも取り上げられている香取市(小見川)では、毎年8月1日に花火大会が開催されています。今年は8000発の花火が打ち上げられ、15万人もの来場者がありました。花火大会の中でも水中スターマインは、他の花火大会では経験できない迫力のあるものでした。



利根川下流総合管理所 〒300-0732 茨城県稲敷市上之島3112 TEL0299-79-3311 FAX 0299-79-3316
利根川河口堰管理所 〒289-0611 千葉県香取郡東庄町新宿2276 TEL0478-86-0477 FAX 0478-86-3457
玉造管理所 〒311-3512 茨城県行方市玉造甲1234 TEL0299-55-4331 FAX 0299-55-4310
※ご意見、ご質問等ございましたらご遠慮なくお寄せ下さい。(メールアドレス:mizu-tonekaryu@nifty.com)

水の郷から

～水がささえる豊かな社会～ vol.6

2012年(平成24年)9月発行
発行所 独立行政法人水資源機構 利根川下流総合管理所 広報誌編集委員会
メールアドレス mizu-tonekaryu@nifty.com
ホームページアドレス http://www.water.go.jp/kanto/kasumiga/

ちよっくら散歩 ～香取市～

ホームページアドレス: http://www.city.katori.lg.jp/

プロフィール



今回は、機構管理の閘門・機場などがある香取市をご紹介します。香取市は、平成18年3月に佐原市、小見川町、山田町、栗源町が合併して誕生しました。総人口は約83,600人、総面積262,31km²は県内4番目の広さを誇り、雄大な利根川などに面した低地部は水郷と言われ観光地となっています。温暖な気候と肥沃な農地に恵まれ、農業生産額は県内第2位であり、香取神宮・小江戸佐原といった伝統的な町並みや長い歴史があり、日本全国を測量した伊能忠敬を輩出した街です。

やまぐらだいじん 山倉大神



「鮭祭り」で有名な山倉大神は、高皇産霊大神が祭神で、悪い病気から人々を救うことを目的とし、弘仁2年(811年)に創建されました。本殿は

市指定文化財となっています。「鮭祭り」は県無形民俗文化財であり、近くの栗山川に上ってきた鮭を初めて捕らえた人が、鮭の頭に大の字があったので、これは山倉の大六天様へのものと奉獻したことに始まったとも言われ、祭りが近づく、決まって鮭が上ってきたため、「おしゃげさま」と崇め、奉納された鮭を初卯祭(現在は12月第1日曜)の前日に白川流包丁式の神事で小さく切り身にさばき、祭礼当日に護符として参拝者へ無料で配られています。護符は「災いをサケる」と珍重され、常備されている鮭の黒焼きの護符とともに、風邪薬として知られています。



さつまいも



香取市といえば、さつまいも。千葉県の産出額(平成21年)は、174億円で、全国第2位を誇っています。県内でも特に、北総台地(香取・印旛地域)で栽培が盛んで、県の栽培面積の約8割を占める全国有数の産地です。

うま 府馬の大クス



樹齢は1300～1500年のタブノキ(クスノキ科)で、国の天然記念物に指定されています。宇賀神社の境内を覆い幹周が15mもあるご神木で、環境省「かおり風景100選」にも選ばれています。

このほか、毎年7月と10月(今年は12～14日)には江戸時代から約300年続く「佐原の大祭」(国の重要無形民俗文化財)が行われるなど、多くの観光名所や祭りがある香取市、みなさま、ぜひ、足を運んでみてはいかがでしょうか。

“夏の風物詩” 香取市民レガッタに参加 ～黒部川で爽快感を～

機構管理の黒部川水門がある黒部川で、7月15日(日)に「第7回香取市民レガッタ」が開催されました。

この大会は「レガッタを通じて健康増進と参加者相互の融和を図るとともに、香取市の自然を愛し、自然を生かし、地域活性化に寄与すること」を目的に実施されており、今年は89クルーもの参加がありました。このような取り組みに、当管理所からも2クルーが出場しました。当日は例年にない強風となりレースが思うように進まないうえ、容赦のない強い日差しが参加者を苦しめました。残念ながら、2クルーとも予選敗退となりましたが、レース終了後の選手一人一人の顔には、漕ぎきった爽快感がありました。



スタート地点のようす



2チーム編成のクルー

水の週間イベント ～夏の1日 親子で水と楽しむ～

水の週間イベントin霞ヶ浦 ～♡たくさんのご家族が賑わい♡～



足水コーナー

8月4日(土)、霞ヶ浦ふれあいランドで「水の週間イベントin霞ヶ浦」を開催しました。天候に恵まれるなか、昨年も好評だった「湖上観測体験」や「足水コーナー」などの水を身近に感じるコーナーに加え、「水質検査体験」では、普段は肉眼ではみることができない湖水の中にいるたくさんの種類のプランクトンを顕微鏡を使って、興味津々に観察していました。水に関する体験や趣向をこらした「すいか割コーナー」などのコーナーで、皆様に楽しんでいただけたイベントとなりました。



水質検査体験

河口堰フェスタ2012 ～船上体験大人気～



船上体験

8月5日(日)、利根川河口堰で「河口堰フェスタ2012」を開催しました。今年も地元東庄町と共催で行いました。天候に恵まれるなか約150名の方が訪れ、巡視船による船上体験、親水コーナーでの水遊びや堰の操作室の見学などを通して、水の大切さや河口堰の役割について関心を持っていただきました。



親水コーナー

一日も早い安心安全を～災害復旧工事報告



霞ヶ浦開発災害復旧事業 ～着実に進んでいます～

平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」によって機構が管理する湖岸堤では41箇所で大きな被災を受けました。

現在、1日も早く湖岸堤を復旧させるため、出水期明けの平成23年10月から鋭意工事を進めております。これまでに、地域住民の皆様方をはじめ多くの方々のご理解・ご協力により、平成24年8月末までに10箇所です工事が完成(一部箇所の舗装は未了)しました。

また、工事が完成していない箇所についても、地域の皆様の安心・安全のため、1日でも早い完成を目指して工事を実施していますので、引き続きご理解・ご協力をお願いいたします。



護岸の変形(北浦)

被災状況

工事完成

堤防の亀裂(北浦)

被災状況

工事完成

Interview ～利根川河口堰護岸復旧工事完成を迎えて

「潮位に合わせた作業手順を常に確認！」 工事現場代理人 高橋 健さま



Q: どのような思いで工事にあたりましたか。

A: 現地に来て初めて自分の目で被害状況を見て、復旧工事を無事完成させるとの強い思いを持ちました。

Q: 一番苦労されたことは何ですか。

A: 被災した護岸は、水中に没しており常に水際の作業となり、潮位の影響を受けることから作業時間が制約されたことです。潮位に合わせた作業手順を常に作業員全員と確認し工事を進めました。

Q: 工事が完成した感想をお聞きます。

A: 被災地域の復興が進み、従前通りの安心できる社会となることを願っています。工事に関係する全ての皆様と共に一致団結して完成を迎えられご協力に感謝します。



被災状況(右岸下流)



工事完成